

船舶事故等調査報告書

平成24年8月30日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

| | | |
|------------|--|---|
| 事故等番号 | 2012横第59号 | |
| 事故等種類 | 乗揚 | |
| 発生日時 | 平成24年2月29日 17時00分ごろ | |
| 発生場所 | 静岡県西伊豆町宇久須港 宇久須港防波堤灯台から真方位125°30m付近 (概位 北緯34°50.9' 東経138°46.3') | |
| 事故等調査の経過 | 平成24年4月17日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。 | |
| 事実情報 | 船種船名、総トン数 砂利採取運搬船 第拾弐新栄丸、499トン 船舶番号、船舶所有者等 132312、中田建設株式会社 | |
| 乗組員等に関する情報 | 船長、五級海技士（航海） | |
| 死傷者等 | なし | |
| 損傷 | プロペラ曲損、左舷船底外板凹損 | |
| 事故等の経過 | 本船は、船長ほか4人が乗り組み、石材約1,500tを積載し、船首約3.2m、船尾約5.0mの喫水で宇久須港において離岸作業中、平成24年2月29日17時00分ごろ宇久須港防波堤灯台付近で船底部に衝撃を受けた。 本船は、船体及び機関等に異常がなかったので航海を続けた。 | |
| 気象・海象 | 気象：天気 曇り、風向 北東、風力 4 海象：潮汐 低潮時 | |
| その他の事項 | 船長は、宇久須港に数十回の入港経験があった。 本船は、上げ潮を待たずに出港した。 海図によれば、宇久須港防波堤灯台付近は、5m等深線と2m等深線に囲まれている。 | |
| 分析 | 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析 | あり なし なし 本船は、宇久須港において離岸作業中、船長が上げ潮を待たず、低潮時に離岸したことから、宇久須港防波堤灯台付近の浅所に乗り揚げたものと考えられる。 |
| 原因 | 本事故は、本船が、宇久須港において離岸作業中、船長が上げ潮を待たず、低潮時に離岸したため、宇久須港防波堤灯台付近の浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。 | |
| 参考 | 今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・水深の浅い港では、喫水及び海図で水深を確認の上、出港すること。 | |